



## 自由の風をつかまえろー「源内忌」に思うー

校長 三村 孝志

脚本家の早坂暁（はやさか・あきら）さんが12月16日に亡くなりました。88歳でした。吉永小百合さん出演の「夢千代日記」などで知られると報じられていますが（新潟日報12月17日）、私にとっては、「天下御免」の脚本家です。このドラマがNHKで放映されたのは1971年（昭和46年）から1972年（昭和47年）でした。小学校6年から中学校1年生のころです。しかし「天下御免」の内容は、実はほとんど覚えていません。ただ「天下御免」というと「おもしろいドラマだったなあ」という感想が自然と浮かんできます。主題歌の「船出の歌」は今も覚えています。一番はこんな歌詞です。

船出だぞ 船出だぞ  
このうら船に帆をあげて  
自由の風をつかまえろ  
てんでん天下の御免丸  
風 風 風 風  
風はおいらがおこすんだ  
おれたちみんなが風なんだ  
へいへいこーらのへいこーら

作詞は早坂暁さんです。作曲は山本直純さんでした。「自由の風」という表現が、平賀源内を主人公としたドラマにふさわしいように感じられました。また「風はおいらがおこすんだ」という表現にもひかれました。

偶然ですが、12月18日は、江戸時代を代表する奇人であり、発明家として知られる平賀源内がこの世を去った日「源内忌」です。

平賀源内とはどういう人物だったのでしょうか。図書室に『集英社版・学習漫画 日本の伝記 平賀源内』があったので、内容の一部を紹介します。源内が生まれた

のは1728（享保13）年です。1716年には、徳川吉宗が享保の改革を始めていました。

源内は、長崎遊学によって、蘭学や西洋の知識を身につけました。1756年に江戸に出てから、源内の才能は開花します。日本で最初の博覧会「薬品会」（やくひんえ）の開催、『物類品隲』（ぶつるいひんじつ、「薬品会」に集められた物を絵と文で解説した、一種の百科事典）の刊行、火流布（かかんぷ、石綿を使った布、熱に強い）の発明、『根南志具佐』（ねなしぐさ、戯作＝江戸時代中期以降に流行した物語）の執筆、鉦山開発にも取り組みます。多才な人でした。

ですが、源内の手がけた仕事は、そのほとんどが未完成に終わったようです。好奇心が強すぎて、一つのことを深く研究する時間をもたなかったことが原因ともされています。また、源内が生きた時代は、西洋の進んだ知識が盛んに入ってきたとはいえ、その知識の量にも限りがありました。ほとんどのことを自分の力でしなければなりません。稀代の天才源内でも、成功させることは大変難しかったと言えるようです。

現在、平賀源内の故郷香川県さぬき市志度の平賀源内旧邸には、源内の銅像があります。その台座には杉田玄白（江戸時代の蘭学医、『蘭学事始』の著者）が書いた碑文が刻まれています。

**暁非常人 好非常事 行是非常 何非常死**

「あなたは世間の常識をこえる人だった。あなたの好きなことは、世間の常識を

こえることばかりで、行動も世間の常識をこえていた。せめて死ぬときくらいは、世間の常識のように畳の上で死んでほしかった」

ドラマに描かれた源内は、実在の人物平賀源内をモデルとしたフィクションです。ドラマでは平賀源内は、早く生まれすぎた自由人として描かれているように思います。乏しい記憶をたどりながら、浮かんでくるのは、常識にとらわれず、権力にこびないで、自由を求める人間の姿です。私たちの時代は、平賀源内が生きた時代に比べれば、はるかに自由な時代となっています。このような時代であっても、やはり「風はおいらがおこすんだ」という言葉は、とても大切な言葉だと思うのです。江戸時代に比べて、自由な時代になったとはいえ、「自由の風」は、まだまだ吹いていないとも思えるのです。

来年は2018（平成30）年です。生徒のみなさんが、常識にとらわれずに、広い関心をもち、いろいろなことに取り組み、自分の進むべき道を見つけることを期待してやみません。

保護者の皆様におかれてましては、当校の教育活動へのご支援・ご協力をいただいたことに心から感謝申し上げます。